

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年10月5日

事業名:	安心して声を発せられる地域づくり支援事業
資金分配団体:	公益財団法人信託資本財団
実行団体名:	特定非営利活動法人場とつながりの研究センター
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	兵庫県
事業対象者:	生活困窮状態にあつて、まわりに頼ることができずに抱え込んでいる子ども・若者とその家族

I. 事業概要

事業概要

神戸市北神区及び三田市内で困窮世帯が多くいる4地域を主な対象として、誰にも相談できずに声を出せずに苦しんでいる子ども・若者や家庭の声を拾うことができる地域住民の「寄り添い人」を育成し、彼らの活動拠点となる学習支援・子ども食堂などの「居場所」の立ち上げや基盤強化支援を行い、既存の団体や専門家など子ども支援に携わる多職種連携のネットワークを作ることで、困っている人が安心して話せる地域住民と出会い「誰かを頼ってもいい」と感じてもらえるような経験をまちの中に多様に増やすことを目的に実施する。同時に、困りごとと出会え、専門機関につなぐためのアウトリーチ体制づくりを行う。

II. 進捗報告の概要

総括

- ・コロナをきっかけに困っている子どもや若者とその家族、外国人などにとって「居場所・サードプレイス」となる場を地域の中に多く作り、行政区域を超えてそれらの場同士で情報や資源の交換・循環が行えるようなゆるやかなつながり・ネットワークづくりに取り組んでいる。子どもたちにとって「多様な選択肢」があることが豊かな自己決定につながると考え、新規立ち上げを促したり、既存の取り組みを加速させる支援に取り組んでいる。
- ・もともと1人の有給職員とボランティアで地道に取り組んでいた、本助成事業の趣旨と合致し、事業拡大を目指して体制整備を行いたいと考えて申請したものである。想定以上に体制整備（人材確保）に時間がかかってしまい、スタートダッシュがうまくきれなかった実態があるものの、体制が整った8月以降、スタッフ一人ひとりの経験に裏付けられた思いとアイデアによって取り組みが急展開すると同時に、依頼案件が増えてきた。当初予定から大幅な変更があるが、本プロジェクトの趣旨や願いが浸透し、期待されているものと考え取り組みを行っている。
- ・新規立ち上げや既存の取り組みのテコ入れを目的とした相談を受けている。また、本プロジェクトの存在を知り、一緒に考えてほしいという持ち込み企画が数件寄せられている（三田小学校区：子ども食堂が主体となった防災教育企画とまちづくりワークショップ、三田市若者のまちづくり課：困窮大学生への食糧支援プロジェクト、来迎寺：お供え物の子ども食堂等への提供、など）
- ・一方で、3地域の地域性が大きく異なり、それぞれの社会資源（キーパーソンなど）や地域特性（社会資源との接続状況や、市・社会福祉協議会（社協）への信頼度）を丁寧に理解していきたい。特に、神戸市北神区や西宮北部では、当団体への認知度も低く、信用を積み重ねていく努力が必要である。現状では、市・社協や既に取り組んでいる団体へのインタビューや地図づくりを通して実態の見える化に取り組んでいるが、地域から受け入れてもらえるようになるために丁寧に動く必要性を痛感している。今後、地域の現状を見える化するための診断シートの作成に取りかかりたいと考えている。

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>学習支援や子ども食堂など、定期的開催している子どもが立ち寄れる場を、4 地域にそれぞれ複数箇所作る</p>	<p>現在、当団体が相談支援を行っている取り組みが6団体ある（内訳：三田市4団体（三田小学校区2団体、狭間小学校区1団体、武庫小学校区1団体）、神戸市北神区1団体（有野小学校区1団体）、大阪府豊能町1団体）。これを本年度末までに10 団体に増やすとともに、重点エリアの小学校区に複数箇所の居場所ができるよう、地縁団体を中心に働きかけを行っている。</p> <p>重点エリアの設定は4箇所を想定している。現在、三田市2箇所（三田小学校区、武庫小学校区）は決まっており、残り2箇所の目星をつけるもの、今後の取り組みでの出会いによってエリアを設定したいと考えている。</p>

活動	進捗状況	概要
<p>①寄り添い人の育成・ネットワークづくり：</p> <p>(1) 困っている人に寄り添うための講座【学習会・交流会、全3回】</p> <p>(2) 多職種連携の子ども支援ネットワーク会議の立ち上げ・運営【情報交換・交流会、全4回】</p> <p>(3) 活動団体のスキルアップとつながりづくり【学習会】</p> <p>②声を集める、声が集まる機会と拠点づくり：</p> <p>(1) 立ち上げ・伴走支援：居場所・学習支援（毎週1回開催）、子ども食堂（月に1回開催）【コンサルティング、4箇所ずつ】</p> <p>(2) 困りごとを持つ子ども・若者、家族との出会いの場づくり：フードパントリー、プレーパークなど遊びの場の提供【新規実践または協力事業】</p>	<p>12月に実施予定</p> <p>①7/29 多職種連携ケース会議（オンライン）。10月より「交流座談会」を開催</p> <p>①9/22 「リスクマネジメント」（田村太郎さん）。以降、11月、2月に実施予定</p> <p>現在、5団体への立ち上げ・運営支援に継続的に参与。うち、1団体が新規に立ち上げた（10月11日開設）</p> <p>ミニフードパントリーとして、2企画実施。他団体からの依頼を含めて、全部で4事業を実施予定。また、実施希望を考える団体との共催事業も実施していく。</p>	<p>高校生・大学生向け／一般市民向けはじめての居場所ボランティア講座、実践団体とのマッチング（合同）</p> <p>②10/16 交流座談会 vol.1 ③11月 交流座談会 vol.2 ④1月 交流座談会 vol.3</p> <p>②11/12 「虐待防止」（飯島仁美さん） ③2月 居場所サミット（仮称）開催</p> <p>5団体の内訳 *重複あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂 3団体 ・学習支援 3団体 ・居場所 1団体 <p>・賞味期限前防災備蓄品の外国人向け配布（神戸市北神区社会福祉協議会と連携）</p> <p>・一人暮らし大学生向けの食糧支援（近隣住民より食糧提供）</p> <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食糧収集のための取り組み（フードバンク関西との連携） ・困窮学生食糧支援プロジェクト(10-11月)、*三田市若者のまちづくり課からの相談・依頼（モデル事業） ・子ども食堂×防災学習企画（11/23）*

<p>③アウトリーチの方法論確立に向けた取り組み：</p> <p>(1) 困っている人への困りごとを集めるアウトリーチの実践 A) コロナをきっかけに孤立する在住外国人の声を聞く取り組み B) 子どもを中心としたまちづくり支援</p> <p>(2) 受援力向上のための研究会（全4回）【学習会】</p>	<p>1) 外国人雇用事業所への支援事業の開始 2) 在住外国人の生活実態調査（事業所・留学生・技能実習生等へのヒアリング等）</p> <p>三田地区住民有志からの依頼で三田小学校区まちづくり会議ワークショップを開催。</p> <p>9/8 アセスメント講座を開催。以降、3回実践予定。</p>	<p>三田地区まち協+じばやん子ども食堂+三田市連携（モデル事業） ・寄り道フードパントリー（モデル事業）</p> <p>三田市商工会登録事業者 1100 社へ情報発信。 20組へのインタビューを予定（現在、3組実施）*同一事業所で働く人をグループインタビューした場合は1組としてカウント</p> <p>子どもを中心に据えたまちづくりを目指すために、子どもも参加するまちづくり会議の実践。地域地図作りワークショップを予定。</p> <p>②10/6 アセスメント講座② ③12/9 豊中市こどもの居場所ネットワークづくり事業学習会 ④頼りたいと思える居場所になるための必要条件を考える研究会の開催</p>
---	---	--

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述

(申請書記載内容)

- ・圏域内4箇所において、困窮家庭50世帯の子どもや外国人のまなび・つどいの機会が継続的に保障されている。
- ・子ども・若者支援に携わっている人たちが定期的に情報交換や研修が行える多職種ネットワークができ、専門機関に気軽に繋がることができるようになっている。
- ・文化圏を共有し隣合わせにあるものの、地方自治制度のために切断された神戸市北神区・三田市・西宮市北部とを、市民活動レベルで交流・接続する。
- ・当団体は三田市内ではいち早く子どもの貧困問題や学習支援・子ども食堂に取り組んできたものの、他市（神戸市北神区・西宮北部）には認知度が十分でなく、信用されている団体ではまだないと感じている。市や社会福祉協議会（社協）へ働きかけを通して、地域のキーパーソンと出会う場面を作っている最中である。出会いが増えることで、少しずつ広がりが加速するものと期待している。
- ・プロジェクトを始める前の時点で、三田市・神戸市北神区・西宮北部における子どもの居場所（学習支援、子ども食堂、体験機会の提供、多世代交流の場など）は、小学校区に1つもないエリアが半数以上であった。聞き取りを通して居場所を地図に起こし、重点エリアを設定して働きかけ始めている。
- ・今回のプロジェクトで地域調査を行い、既に取り組んでいる「子どもや外国人のまなび・つどいの場」の情報を集め、インタビューを行うなどして、活動での課題や困りごと、目指したい姿などを聞き取りしている。思いを持って立ち上げたものの資金や食糧が十分に調達できずにスタッフの持ち出しで取り組んでいる事例も多くあり、持続可能に運営できるような支援が求められていると感じている。
- ・居場所同士のネットワークづくりは、9月末時点では取り組み始めた段階であり、これからの進捗に期待したい。当初の予想通り、行政区域を超えての情報共有やつながりを持っている事例はなく（市や社協レベルでもお互いの情報共有・先進事例の理解などは一切なかった）、民間NPOだからこそできる動きとして三田市・神戸市北神区・西宮北部をどのように接続できる、に取り組む必要性を感じている。とくに、類似事例の豊中市こどもの居場所づくりネットワーク（事業名「いこっと」）は参考になることが多く、12月に学習会を開催してそのノウハウを学び分かち合う場を作る予定でいる。
- ・また、子ども・若者の課題に関わりたいと考えている専門職（福祉職3名、心理職1名、弁護士1名、社

会保険労務士 1 名) から参加表明をいただいております、子どもの困りごとや課題を柱にした事例検討会の開催も行える体制が整いつつあると感じています。

V. インプット

		2020 年度	2021 年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥11,423,800	¥11,423,800	¥3,538,986	31.0%
	管理的経費	¥0	¥830,691	¥830,691	¥353,869	42.6%
合計		¥0	¥12,254,491	¥12,254,491	¥3,892,855	31.8%

補足説明	<p>メインスタッフの新規雇用が予定より遅れたため、直接事業費の執行率は低めである。8 月に職員体制が整い、かつ事業の新規実践が 10-12 月に集中しているため、執行率は今後追いつく予定である。</p> <p>*なお、予算は修正後予算のもの。</p>
------	--

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

- 地縁団体とのコミュニケーションが予定より進んでいない。
 - ☐ 三田・神戸市北神区・西宮北部の地域事情（特に旧村部）が大きく異なるから？
 - 人脈・ネットワークを使ってアプローチ、キーパーソン探しを行い、地域理解を丁寧に行う。
 - ☐ 緊急事態宣言下で地域団体での寄り合い・集会の回数が減っているから？
 - 宣言解除の 10 月以降、地域活動が少しずつ戻ってくることを見越し、改めて情報発信を行う
- コロナを理由に動きを控える活動グループが、想像以上に多くいる（特に地縁団体）
 - ☐ デルタ株が子どもに強い感染をもたらすとの報道から、子どもへの活動を自粛する動きがあるから？ 感染児童・生徒のいる学校からの自粛要請（または付度）があるから？
 - ボランティア活動であることから無理に活動を実施することを願うものではないが、コロナで困っている子ども・若者やその家族がいることも事実である。それでも実践を続けている活動グループや、（すぐには難しいが）支援を受けてよかったという声を集めるなどして、その必要性を伝えていくことから始めたい。また、学校側の立場も理解できるため、「交流」「多く」よりも「必要な子に」を軸にした情報発信・協力依頼を心がけたい。
- 他者の力を借りたい、一緒に取り組みたいという声が現状、まだ少ない
 - ☐ ネットワークをつくることの動機が弱いから？
 - ネットワークを生かしたグッドプラクティスを積み重ね、紹介していくことで信用を高める
 - ☐ NPO 法人に対する信用が十分に高まっていないから？ チラシを見ても、その必要性・ミッションが分かち合えていない？
 - 市・社協などと連携して、地縁団体と直接コミュニケーションを取る機会を調整中。時間をかけてでも取り組みたい。
- プロジェクト開始前の時点で、さまざまな「社会資源」が地域の中で十分に開拓・共有されていなかった。
 - ☐ コミュニティーソーシャルワーカー・地域福祉支援員（CSW 等：主に社協が担当）が十分に掘り起こしをできず、地域づくりにつながっていないから？
 - 立ち上げ希望の団体がアクションを行うことで、CSW 等が動き始め、地域資源の開発や接続

が生まれ始めた事例がある（神戸市北神区での子ども食堂立ち上げ支援）。「動く」ことが「動かす」ことになるため、なるべく多くの動き（事例）を生み出せるように働きかけたい。

- ☐ そもそも、CSW 等の人員が少ないから？
→ 当団体の立場から各自治体（や議員）に実情を伝え、グッドプラクティスの紹介を通して提言を行いたい。

VII. その他

自由記述

- ・今回のプロジェクトを通して、子どもの居場所づくりに対する自治体の対応（支援策、情報の取りまとめ、市と社協の役割分担や推進体制）が大きく異なり、地域プロファイリングの見直しが必要で、そのための枠組みを作り始めている。

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	<ul style="list-style-type: none"> 神戸新聞(2021/8/9)朝刊地域欄「コロナ禍、外国人の孤立防ごう 三田の NPO 支援」（全文 WEB 公開記事） https://www.kobe-np.co.jp/news/sanda/202108/0014576519.shtml 神戸新聞(2021/9/26)朝刊地域欄「被害は弱い立場の人に集まる 大災害時の危機管理、復興庁参加が講演」（有料会員のみ全文公開記事） https://www.kobe-np.co.jp/news/sanda/202109/0014709113.shtml
広報制作物等	有	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの居場所立ち上げ立ち上げ支援の案内チラシ <ul style="list-style-type: none"> ☐ 「子どもの居場所づくりをお手伝いします」 ☐ 「わたしたちと取り組みませんか？ 子どもが安心して過ごせる場づくり」 在住外国人を雇用する企業とつながるためのチラシ <ul style="list-style-type: none"> ☐ 「外国人の雇用の「こまった」は、場とつながりの研究センターへお声がけください」 講座・交流会の案内チラシ <ul style="list-style-type: none"> ☐ 9/22「皆さんの活動から一緒に考えるリスクマネジメント～もしも?!の時に応える力」 ☐ 10/16「三田北神子ども支援者座談会 vol.1」 ☐ 11/12「見逃さないで！ 子どもの SOS～声なき声を、キャッチする」
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	開催されている	社員総会 2021/10/09 実施予定 理事会 2021/5/15, 8/26, 9/27 実施
2. 内部通報制度は整備されていますか。	整備されている	理事会（2021/5/15）にて承認済、職員・ボランティアへ共有